



トゥルクシブ

「トゥルクシブ」鑑賞会について

フィルム・ライブラリーでは、内外古今の優秀映画の収集保存とその活用を努めており、その事業の一部として、歴史的な価値のある芸術性豊かな古典映画を鑑賞し研究する会を開いていますが、今回は特別鑑賞会第一回として、サイレント末期のソヴェト記録映画「トゥルクシブ」をとりあげ、毎週二回（日・水曜日二時）上映します。

「トゥルクシブ」は、ソヴェトのヴオストク・キノ（東方映画製作所）一九二九（昭和四）年度の作品で、一〇月一五日に封切られ、我が国では一年遅れて一九三〇年一〇月八日に、武蔵野館と電気館で封切されました。シベリヤとトルキスタンを結ぶ新しい鉄道建設を主題としたこの映画は、初期の長篇記録映画の代表作として、ソヴェト・サイレント映画の植尾を飾る作品です。現在では文献の上でしか知ることのできない、モンタージュ理論の具体的な作例を示す貴重な資料といえましょう。

トゥルクシブ

無声七巻

ソ連ヴオストク・キノ一九二九年度作品

監督…………… ヴィクトル・トゥリン
撮影…………… イエ・エヌ・ストラヴィンスキー
…………… ス・ヴェ・フランツィン

Turkshib

Directed by Victor Turin.

Photographed by F. N. Stravinsky,
and B. V. Franchson.

この映画の内容について、封切当時のキネマ旬報第三七八（一九三〇年九月二日）号には、略筋——中央アジアのトゥルクスタンは全ロシアの需要を充すに足る多量の綿を生産し得る土地であったが、残念なことには文化から隔絶されてあるために食糧を得る途に乏しく、暑熱に喘ぐこの地に時たま貴重な水が流れて来ても彼等は綿畑よりも先に穀物畑を湿さねばならなかった。このトゥルクスタンの穀物を送れば、その畑からは無尽蔵な綿が採れるのだ。そこで豊か

に穀物の穫るシベリアとトゥルクスタンの間に一四四五キロに亘る鉄道が敷設されることになる。（千代田洋行輸入）

又同誌に飯田心美氏が紹介と批評を寄せています。当時の反響の一端として引用します。

（前略）映画はまづ綿及びその用途を示す要領よきプロローグに続いて前述の問題が誰にも判るよう説明される。そしていよいよトルキスタンのアルマ・アタが南方の中心地となり、北方シベリア線に通じるセミパラチンスクとの間一四四五キロメートルに亘る鉄道工事が企てられる。最初は測量隊の活動、ついで敷設材料の運搬、それからいよいよ壮大な施設工事となる。勿論これはトゥルクシブ 鉄道建設の重要さを世に訴へんがために作られた作品で、この映画発表後六ヶ月目の今年四月に至って漸く新設工事は完成されたのであるから、映画に現はれたトゥルクシブは中途の工事までで終りを告げてゐる。

だから一つの鉄道建設史としてはこれは完全なものではない。だがこの映画をその本来の目的たる「宣伝映画」として見る時、そこには単なる宣伝の意味の他に救済の価値が潜んでゐることを発見することが出来る。まづ第一に鉄道敷設によって生じる経済的利益及び文化的利益が誰にも判り易く描かれてあることは言ふまでもないが、その他に特記すべきものは作業地において合はせた材料を以てよく演技映画に勝る感動的なシーンを描き得たことである。例へば測量隊が始めてカウカサス人の部落を訪れた際の微笑ましい情景、いよいよ工事開始となつてから相異なる人種が協力して労働に従事する涙ぐましい意気込み。最初の工事が完成して新しい線路に走る機関車を追つてゆく土民たちの驚きと喜び、文化の輸入に遅れまいと勉強する彼等の奮発心など、これらは此の映画に普通の「演技映画」の及ばない迫力を与へてゐる。また工事が開始される前に現はれる地図によつてシベリアとトルキスタンの地理的關係を明瞭に示めた演出上の手腕は、周密な注意によつて前記の諸場面をカメラに収めた手腕とともに監督者ヴィクトル・トゥリンの偉らさを証明するものである。此の映画もまた他のロシア映画と同様にモンタージュによる独特の構成法を採つてゐるがそ

れが例によつて的確な効果を挙げてゐる。一例を挙げれば最初のトルキスタンが水に渴してゐる光景、カサクスタンの羊毛を積んだ駱駝の隊商が砂漠風に遭遇する辺り、敷設工事に使はれる機械のダイナミックな美しさ等がそれである。

ヴィクトル・トゥリンはこの「トゥルクシブ」一篇によつて一躍ソヴェト一流の監督者の列に入ったのであるが、成る程ロシアとしても最も力瘤を入れてゐる大計劃がこれだけ力強くそして感銘深く人々の心に呼びかけられたのであるからトゥリンの名がかくの如く讃えられたのは当然であらう。けれどもその事業に直接關係を持たない我々が見てもこの映画は決して我々を失望せしめない。失望するどころか、これに現はれた建設的な意志の力を見る者の心を搏たずにはゐない。聞く所によると検閲の方も無切除に近いようである。ソヴェト映画の「完全な」姿を知る上にも是非一見の必要があると思ふ。

（引用文の仮名づかいはすべて原文のまま）

「トゥルクシブ」と日本映画

岩崎 昶

「トゥルクシブ」が日本で封切られたのはたしか一九三〇年であつたから、もうちょうど二十五年になる。今の若い人たちは生れたか生れないかというときだし、私もまだ若かつた昔である。だいたい、日本映画そのものが若かつた。まだトーキーになつていなかつたし、映画の作り方もよく知つてはいなかつた。溝口健二、小津安二郎、五所平之助、などの青年監督がようやく日本人の生活を描いた日本人の映画をこしらへはじめた頃であつた。だからその頃「トゥルクシブ」の上映が日本の映画界にあつた大きなショックは、今日この映画を「古典」としてはじめて鑑賞する人たちにはたぶん想像もつかないだろう。

「アジアの嵐（アドフキン監督）」と「トゥルクシブ」とこの二つのソヴェト映画は日本の映画の歴史の上で特筆されなければならないものであつた。いや、それだけでなく日本の思想と社会の歴史の上でも大きな出来事なのであつた。

其その頃は、日本のファシズムの擡頭期であった。すでに有名な田中義一の内閣の下で、あの血なまぐさい三・一五、四・一六の大弾圧が行われ、山本宣二代議士は殺され、大学その他の学校には軍事教練が強制され、等、等。すべてが軍と官僚とによる中国侵略の準備をめざしていた。「暗い谷間」の戸口に私たち青年はたっていたのであった。そのとき、ソヴェートから来た映画はちょうどこの息づまるような暗黒の中にさしてきた一条の光のように感じられたのも当然であった。その頃の日本のインテリや学生たちは乾いた土地が水を吸いこむような自然な早さでソヴェートの映画から養分を求めた。

もちろん、当時の政府がそれを寛大に許すはずはなかった。たいいていの映画は検閲で禁止された。エイゼンシュテインの「戦艦ポチョムキン」も、ブドフキンの「母」も日本に来たことは来たが、これは横浜の税関でそのまま拒否されて送りかえされてしまった。その嚴重な壁のわずかな隙間からさして来た二条の光、それが「アジアの嵐」と「トゥルクシブ」であったのが。この映画はもうたんなる映画ではなくて、西の方に花咲いた新しい社会と国家からの啓示のようなものとして受けとられた。

谷口善太郎さんがその頃加賀歌二のペンネームで、プロレタリア文学の名作としていまに残る「綿」という小説を書いたが、その中で、この主人公が母親ととも「トゥルクシブ」を見物する場面がある。

「ひろびろとした豊かな綿畑、羊の群れ、見わたすかぎりのトルキスタンの原野、ひでりに苦しむ未開拓の土地、輝きわたった紡織工場内部、積雪の中に立ち茂るシベリアの大森林、穀物の滝、この二つをむすびつけるために、ソヴェートロシアの労働者と農民がかれら自身の政府の指導によって、零下何十度の氷の河中や、旋風のはげしい山野をつらぬく大鉄道を建設してゆく光景は、私たちの胸に、焼きゴテのように迫力をもってせまってくるのだった。

私は映画の進行について、社会主義建設の熱意と意義を、何度も母に説明した。

画面はさらに進んでいった。そして縦横にうつされた機関車の轟進にいきまじって、穀物の山、機械の美、農村と都会、文明と未開の瞬間がおりこまれて、社会

主義建設の勝利をあらわす急テンポの場面がすぎた後ふたたび見事な綿の木が、スクリーンへ焼きついて、この映画はおわった。

私たちはものにつかれたように呆然としていた。昂奮と感激のあまりわれを忘れたのだった。

これはその頃私たちが「トゥルクシブ」にたいして持った感激と昂奮とをよくあらわしている。

その頃、ファシズムはまだ日本国民の自由と進歩との息の根をとめるころまでいっていなかった。あと二三年して、あの「満州事変」を境にして、息の根はとめられたといっている。プロレタリア階級の解放運動、ことにその文化運動はまだかなり活潑だった。私は数十人の同志たちと「プロキノ」を作ってプロレタリア映画の製作と上映をやっていた。商業映画会社

でも、溝口健二、内田吐夢、鈴木重吉、伊藤大輔、などの青年芸術家たちがプロレタリアに同情した左翼的な映画いわゆる「傾向映画」を作っていた。「トゥルクシブ」と「アジアの嵐」はこの動きと密接に結びついたことは当然であった。それは第一に、その時までたんなる理論としてだけ紹介されていたソヴェート流のモンタージュの実体を日本の映画人たちに示した。第二には、ドキュメンタリー映画の重要さを教えた。はじめ「トゥルクシブ」を見て、あの流動する画面の美しさと力強さと、その画面の積み重ねから生れてくる明確な思想にうたれて、なるほどソヴェートの記録映画と、ソヴェートの社会主義的建設とはこのようなものであるのか、と唖ったこと、すべて昨日のようにはっきりと思い出す。

(映画評論家・プロデューサー)